

第 1 回 伊方町総合教育会議議事録

【日 時】 令和 2 年 10 月 26 日（月） 15 : 00～16 : 41

【場 所】 伊方町役場 3 階 特別応接室

- 【次 第】
1. 開会
 2. 町長あいさつ
 3. 教育長あいさつ
 4. 議題
 - (1) 伊方町教育振興に関する大綱について
 - (2) その他
 5. 閉会

【構成員】 伊方町長 高門清彦

伊方町教育委員会

教育長 中井雄治

教育長職務代理者 藤川美喜

教育委員 阿部弘喜

教育委員 道元 平

教育委員 阿部勇二

【事務局】 町長部局

濱松副町長、橋本総合政策課長、ほか担当職員 2 名

教育委員会事務局

菊池事務局長、ほか担当職員 4 名

【傍聴者】 なし

【15時00分開会】

(橋本総合政策課長)

皆様お揃いでございますので、ただ今から、令和2年度第1回伊方町総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、町長からご挨拶をお願いいたします。

(高門町長)

本日は、第1回の伊方町総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。この会議は法律の改正により4年前に設置いたしました。その目的は、行政と教育委員会が十分な意思疎通を図り、本町の教育課題やあるべき姿を共有し、より一層、町民の皆様のご意見を反映した教育行政の推進を図るためのものがございます。この会議におきまして、伊方町教育振興に関する大綱を制定し、教育行政に取り組んでいくところでございますが、本大綱の計画期間が本年度最終年度となっております。本町の重要課題でございます、三崎高等学校の存続問題につきましては、昨年度、文部科学省から地域との協働による高等学校教育改革推進事業の指定校となったことを背景に、分校化が延期され、現在町営の寮の整備を進めているところでございます。大綱の見直しとともに、地域の宝でございます子ども達がよりふるさとを愛してもらうために、よりよい環境の中で学習ができますように行政として教育環境を整えてまいりたいと考えております。本日の会議が有意義な会議となりますことを心からお願いを申し上げまして、開会のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。続きまして、中井教育長からご挨拶をお願いいたします。

(中井教育長)

伊方町総合教育会議ということで、大事なことは町と教育委員会の方針が一致しているということが、教育推進で心強いことだと思います。同じ方向を目指してしっかり審議していただき、提言して町の方にもご協議いただき、伊方町の子ども達のために、また伊方町の社会教育のために、より良い方向を目指していけたらと思っております。宜しくをお願いいたします。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。当会議の進行につきましては、私、総合政策課長の橋本が会議の進行を進めさせていただきますので、よろしくをお願いいたします。それでは会議を進めて参ります。

本日は、「伊方町教育振興に関する大綱について」を議題といたします。

まず、教育振興に関する大綱の施策の方針に沿った本年度の取り組み状況について、事務局から説明願います。

(菊池教育委員会事務局長)

それでは、施策の方針に沿った本年度の取り組みについて、説明いたします。

資料はお手元の「伊方町教育振興に関する大綱」の4ページにあります。ここにあります4つの方針に基づきまして、本年度、教育委員会が取り組んでいる施策等について説明いたします。

まず、方針1の「学校教育の充実」に関しましては、保育所、学校、家庭、地域との「横の連携」の強化を図り、これからの時代に求められる「生きる力」の育成に重点をおき、特に今年度は新型コロナウイルス感染症対策におきましても、細心の注意をはらい必要な環境整備に取り組んでおります。

中学校では、今年度から英語力の向上を目指して、英語検定料の補助制度をスタートさせております。小学校では、英語学習による異文化にふれあい、国際感覚の醸成に資するため、外国語指導助手・ALTを適正に配置しております。

情報教育については、平成26年度以降、全小・中学校に電子黒板の設置を始め、タブレットについては、昨年度既に全中学校に配備が完了しております。これにより、全小・中学校への配備が完了し、文字通り、小・中学校が一貫した情報教育の環境が整備されました。これを受け、7月10日に伊方中学校において愛媛県教育委員会との共催により、県内全市町教育委員会の職員を対象に1人1台端末を活用したオンライン授業研究会が開催されました。その成果につきましては、新聞での報道にもありましたように、高く評価されております。全国的に新型コロナウイルス感染症が終息していませんが、今後の臨時休校等を想定したオンライン授業の環境整備に取り組み、整備完了しております。児童生徒が家庭でもタブレットを活用した学習ができるよう環境も整備されておりますので、学力の向上に資するものと期待しております。

次に、方針2の「生涯学習・生涯スポーツの活性化」に関しましては、予定していた行事・イベントが新型コロナウイルス感染症の影響で中止を余儀なくされています。そこで、生涯学習の分野では、町内の各分野で活躍されている専門知識や技能を持つ方々を発掘し、その情報を町民や各種団体等に提供することにより、町に根ざした学習活動を支援し、町主体のまちづくりにつなげるため、人材バンク制度に取り組んでいるところです。

また、広く町民に図書に親しんでもらうため、来館なしでも図書が借りられる仕組みとして、インターネットを活用した電子図書館の創設に取り組んでおり、今年度中には準備が整う予定です。

スポーツの分野におきましては、今年度は、「スポーツ推進計画」の具現化に向けたイベントを計画していましたが、こちらも新型コロナウイルス感染症の影響で断念しております。来年の東京オリンピックの開催で、来年4月の聖火リレーが無事に成功できるよう取り組んでいるところです。また、プロスポーツを実感していただける機会の提供として、「プロバスケットチーム・オレンジバイキン

グス」の公式戦が、12月12日、13日に実施される運びとなっております。

次に、方針3の「伝統・文化の継承と発展」に関しましては、佐田岬半島の伝統文化と文化財を守りながら、地域の魅力づくりにつなげる活動を継続しております。今年度は身近な歴史文化を守り、伝える意識を醸成するため「地域博物館構想」の具現化に向け、基本構想を踏まえた基本計画の策定に向け、検討を進めています。

最後に、方針4の「信頼と協働で創る豊かな地域社会の構築」に関しましては、新型コロナウイルス感染症の影響で、人権文化を根付かせるため、地区別人権・同和教育懇談会をはじめ、各種研修会への参加等、事業が中止を余儀なくされております。今後段階的に町民が一体となった人権・同和教育をはじめ、男女共同参画の推進に努めたいと思っております。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

(橋本総合政策課長)

ありがとうございました。ただ今、教育委員会から教育振興に関する大綱の施策の方針に沿った本年度の主な取組状況について説明がありました。

それではこの大綱に基づいて、いかに本町教育の充実を図っていくか、これから、意見交換を行いたいと思います。どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いします。いかがでしょうか。

(藤川美喜委員)

このコロナ禍、各学校、色々な制約を受けながら、子ども達のこともしっかり考えつつ、先生方が大変な努力をしておられる様子を見て、安心いたしました。何より、エアコンの整備が活きており、子ども達はマスクをしながら暑い夏場も何とか乗り切れたのは、エアコンの整備をしておいて良かったという事で、安心しております。子ども達の学ぶ機会を守りたいと思っており、それについて一番考えておかないといけない、早めに手を打っておかないといけないのは、Web環境の整備だと思われまます。

今、Web環境は家庭の方でも大分整備されていて、9割方オンラインで対応ができると聞いております。ただ、1割については、自分たちではWeb学習ができない子ども達がいるということなので、定例会では、その子たちは各集会所で一緒にオンラインの学習を受けるような対処で乗り切ったという報告をお聞きしました。そのあたりも、もちろんそれも分かるのですが、家で各自が、もっと学びができるような、例えばルーターを貸し出すなど、Web環境の整備を町の方でももう少しできたらなというのが私の考えです。

もう1つ、各集会所が災害時の避難所になっていると思います。もちろんそれは、学校と体育館、それから学校の施設もそうですが、そのあたりのWeb環境をもう一度、検討とお聞きしたのですが、そういう点でもコロナ禍でより身近とな

った Web 環境の整備を町の方でも進めていただきたいと思います。そのあたり、どう思われているのか。

先日、学校訪問で、学校同士が Web 環境でオンライン授業をしているという報告を受けました。とても画期的なことだと思いました。

九町小と三机小だったのですが、6年生がお互いの意見を深めあうために2つの学校が Web でつながって授業ができたという報告を受けました。それは今離れ離れになって少ない人数で、子ども達にとって、やはり意見の深まりがしにくい環境でもあるので、そのあたりもまた考えていけたらと思います。私自身も疎いもので、どういうふうに手立てをしたら、それが進んでいくのか分からないので、その手立てを専門の業者さんにも教えていただきながら良い方へ進んでいったらと思います。そのあたりも方針等確認させていただきたいと思いました。

(高門町長)

ありがとうございました。ルーターの貸し出しも考えましたが、それをやると「今使っているルーターを返すので、貸してくれ」ということになりかねない。あと、モバイルも考えました。モバイルは通信量に制限があるらしいので、動画だと満足に見ることができない。だから、集会所内での整備を進めています。モバイルルーターで制限のないものがあるかもしれませんが、今のところはそれでやっていくのがベストなのかなと思っています。ぜひ、自由に持って帰れるように学校のほうで進めてもらいたいなと思っています。

また、電子図書館も進めています。これも学校のほうで利用してもらって、図書館に来なくても本の貸し借りができるようにします。1つ1つのコンテンツを揃えるのは経費がかかるようなので、どのくらい満足に揃えられるというのは、これからですけれども。学校側のほうでこういう本を揃えてほしいというような要望があれば、取り扱いしたいと思っています。

Wi-Fi 環境の整備は町の各公共施設で進めたいと思っています。最初は、子ども達のための集会所の Wi-Fi 整備を進めましたが、町内の全集会所に希望を聞いて、希望のあるところは Wi-Fi とテレビの使用料、月5～6千円になるんですかね。それは町で負担して整備を進めていきます。公共施設は、順次進めていきたいと思っています。結構これもかかるんですよ。もっと安くできると思っていたのですが。アグリトピアの Wi-Fi が今まで、できてなくて、就任時から言っていて、ようやく今年やるようになりましたが、これでも4～500万円かかるんですよ。1つ1つそのようなところは詰めてやっていきたいなと思っています。

学校間でのオンライン授業はできますよね。

(中井教育長)

十分できます。この間も伊方中が3つの学校間を結んで、ALT4人と伊方中の子ども達でオンライン授業を行いました。

(高門町長)

せっかくなので、十分活用してもらいたいと思います。

もう1つ、宿題を1つ教育委員会に出しているのですが、タブレットを今度買い替えるというので、私は、小学生と中学生の新入生に配ったらいいのかなと、学年とともに持ち上がっていくやり方がいいのではないかと考えています。この宿題、検討しましたか。

(菊池教育委員会事務局長)

検討中でございます。

(高門町長)

皆さんどうですか。今は一括で購入して、6年経ったら買い替えなんです。使えるものも廃棄処分です。1年生に買ってあげて、小学校卒業するまでの6年間使ってもらって、その子にあげたらいいと思います。大事に使いなさいよと。そして、中学校に入る時は新しいものをもらって、3年終わったら、本当はあと3年あるけれど、貸してあげる。高校に行っても使いなさいよと。というのが、子ども達にとってもいいのかなと思うんですけど。

(濱松副町長)

対応年数きたら取り戻して、何に使うのかという話ですよ。

(藤川美喜委員)

そうだと思っていました。持って帰っても使えると。

(高門町長)

今は違うんですよ。一括購入で、6年経ったものの使い道は決めていません。

(中井教育長)

導入した経緯が一括だったので、難しいところもありますね。お考えとしては、小学校1年と中学生1年で毎年購入していくという形で持っていくということですね。

(菊池教育委員会事務局長)

今、町長さんから話があったように、宿題をいただいております。そういったことで進めていきたいと検討しているところです。また、ご報告をさせていただいたらと思って言います。現在、6年を目安に小学校・中学生で更新としています。そういったことで、卒業すればお渡しできるように進めていきたいと思っています。いずれにしても、一括して購入していますので、いつの時点から順次というイメージになると思いますが、そういうことも含めまして、またご報告をさせていただきたいと思っています。

(道元平委員)

タブレットの耐用年数はどのくらいなんですか。

(菊池教育委員会事務局長)

耐用年数といたしましては5年となっています。あくまで耐用年数ですので、使おうと思えば、10年でも使えます。ただ、それに対応するソフトウェアの部分で、バージョンが古いから、学校で使いにくい、ということも聞いていまして、そこらへんも調査したうえで報告いたします。

(中井教育長)

先ほど、町長さんが言われていた、デジタル図書についてですが、先日の校長会で、デジタル図書館ができるとお伝えして、12月の終わり前には動き出さうと。そのことで、子ども達もタブレットからアクセスできるような形になるので、家庭に持ち帰ってのデジタル図書館の利用を進めていきなさいとお伝えしました。次の校長会では、図書館のほうから、図書カードを使って、デジタル図書館にアクセスできるような手立てを説明するという運びとなっております。

(濱松副町長)

デジタル教科書は子ども達のためにどのように使うのでしょうか。

(中井教育長)

デジタル教科書はですね、現在、伊方町は進んでいるほうで、教員用のデジタル教科書はあるのですが、子ども用となると、お金がかかるので、まだできていません。ただ、文部科学省が来年か再来年に8割の学校にデジタル教科書を導入する方針を定めました。伊方町が最先端ということであれば、県教委が導入してくれるのではないかと期待しています。

(濱松副町長)

町としては、電子機器については、デジタル関係の整備・普及に力を入れています。現場のほうで、どのようにしたらいいのかを考えていただきたい。デジタル図書になったので、図書館に聞くのではなくて、教育委員のほうから住民に周知していただくような手配をしていただきたい。

(阿部弘喜委員)

4つの施策に関係ないかもしれないが、川永田に2件新築の家が建っているそうですね。人口減少について、町としてはどのような対策を取っているのか。町営のマンションが建っているのも対策の1つだとは思いますが、ご存知のように保内にマンションを借りたり、最近では宇和の土地も安いので、宇和に家を建てたり、借りたりしている人がいる。一戸建てを建てる時に助成とかあれば、空き家対策にもなるので、いいと思ったが、これらに対しての補助などはありますか。

(高門町長)

今年度から、年齢関係なしに新築で、上限100万円の助成を始めました。あと、

リフォームが上限 50 万円ですね。町内全体で新築が 20 軒ぐらいあります。100 万補助を出すと言ったら、みんなすぐに建てるんですよ。ありがたいことです。

また、移住してきた人に関しては、上限 300 万円の補助もあります。この補助は以前からありましたが。他所からの人ばかりで、地元の人には何もないのかという話があったので。

(阿部弘喜委員)

他所からも来てもらわないといけないが、地元も当然なんです。原子力発電所の立地町として、町は原子力に関することが出てきませんよね。町長は共存・共栄ということを謳っている。町は税金が入るかもしれないが、町民に対しては立地町として、跳ね返ってくるものはないんですか。

(高門町長)

跳ね返ってくるものは、プレミアム商品券 1 万円、八幡浜と一緒に。私は、水道料金もタダになったっていいと思いますが。

(阿部弘喜委員)

町の施策ではなくて、四国電力に、電気代をタダとか半分とかにしてくださいと言ってみてはどうですか。

(高門町長)

言っているものならやっています。私が、今電力に言っているのは、一緒にまちづくりを考えてくださいということです。町の若手職員と四電の若手職員で勉強会を行う。そこから、色々意見を出してもらいたい。そういうソフト面・知恵の面で、まちづくりと一緒にやっていきたいと思っています。

(阿部弘喜委員)

もう少し、電力会社にプレッシャーをかけて、伊方町の戸数ならそんなに多くないので、町長から言ってもらえたらなと思います。

(濱松副町長)

町で、定住促進というのは、目につかないかもしれませんが、伊方町移住定住促進協議会など作って、色々な施策ができていますし、住居の問題や、出産・入学などに対して、一部補助金を出しています。全国共通の商品券ですと、八幡浜のほうに行くので、伊方町のみで使える商品券を作りまして、目にはつきませんが金銭面の支援も、伊方町は他の町に負けないぐらいはしていると思います。

(高門町長)

これも、間接的ですが、使用済み核燃料税を使った事業で今、年間 3 億円町に落ちるようになってきました。移住定住も取り組んでいるが、これは、日本全国の問題でもあり、愛媛で人口が増えているのは、松山市と松前町ぐらいだと思います。

す。150 万人居た愛媛県の人口が、今では 130 万人です。

(阿部弘喜委員)

伊方町から保内町や八幡浜市に住むことはいただけない。

(高門町長)

それは問題です。ですが、これは町の環境を整えること以外は対策がないです。嫁さんの力が強いので、スーパーが近くにあるとか、コンビニが近くにあるとか、そういうことが求められます。湊浦に住むのはいいけど、川永田は嫌だ。これらが、若者の本音ではないだろうか。

(阿部弘喜委員)

町のほうで、分譲地の構想などはないのですか。

(高門町長)

町として、学校の前にこの間、分譲地を売り出したんですけど、空き地を売ってくれと言っても、売ってくれないんですよ。

(阿部弘喜委員)

瀬戸や三崎はどんどん生徒数が減って、複式授業をしないといけないようになっています。

(高門町長)

加周もそうだが、売り出しても買う人がいないんですよ。

(阿部弘喜委員)

そうかといって、山の頂上には、小さな風車がどんどん建って、切り開かれています。

(濱松副町長)

住むところは皆さんが選ぶので、こちらから強制はできません。ただ、若い人はスーパーや学校・保育所のある特定の便利な場所に集中します。

(阿部弘喜委員)

国道が頂上線に通っているんで、どの集落に行くためにも、国道から下りないといけません。道的に独特です。

(高門町長)

その中で、売れそうなところは、集中的に開発を行っていきたい。

(阿部弘喜委員)

伊方町の場合、町内に不動産屋がない。

(道元平委員)

空き家はあるが、空き家を貸そうという人もいない。

(阿部弘喜委員)

空き家はリフォームするよりも立て替えてもらうぐらいしないと、なかなか難しい。空き家のリフォームは住みづらい。

(橋本総合政策課長)

平成 28 年から空き家バンク制度を作りまして、10 件ほど実績があります。現在、30 数件ホームページに掲載しています。問い合わせはありますが、購入したい物件が、賃貸のみだったり、土地のみの売買もあつたりします。先ほどの住宅の補助金もですが、PR が下手なので、もっと上手に PR をしていきたい。

(阿部弘喜委員)

最後にもう 1 点。町長が就任した時に、給食の無償化を検討するとしていましたが、まだ、その考えはお持ちですか。

(高門町長)

職員の皆さんに聞いたところ、賛否両論で、反対の意見のほうが多かったです。給食の無償化や、エアコンの整備など施策を 3～4 つ挙げて聞いたが、エアコンの整備が優先となりました。給食の無償化は委員さんに聞いても賛否両論ですね。

(阿部弘喜委員)

給食費の未払いとかはあるんですか。

(菊池教育委員会事務局長)

滞納額は 200 万円ぐらいです。

(阿部弘喜委員)

多少の給食費の補助があってもいいのではないか。

(高門町長)

生活困窮者は無料になっていますよね。

(中井教育長)

そうです。

(阿部弘喜委員)

教育会議でこの話が出た時に、宇和島市が給食費の無償化をやろうとしていた

と思いますが、結局、宇和島市もやめたところがありまして。給食タダにしてもらったほうがいいという人もいますが、各家庭の保護者に前もって聞いた時に、食べ物自分たちが払うことが当然であり、給食をタダにしてもらったら嬉しいけど、ありがたいけど、それは甘えすぎではないかと言っていました。最低でも、子どもの衣食住は親が責任もって払いますよと。してもらったら嬉しいですけど、強く要望するほどのものではないということがほとんどの方の意見でした。その時に宇和島がうまくいかなかったということが、地理上近いこともあり、親にも関心がありました。保護者の間でも、「無理もない。それよりもエアコンが優先だ」という意見がありました。

(阿部勇二委員)

私達のイメージでは、給食の無償化はあまり聞きませんね。

(藤川美喜委員)

コロナで休校になって、給食のありがたみをより感じるようになったのではないのでしょうか。

(高門町長)

給食はまた、課題としておきます。

(道元平委員)

では、次に、3番目の伝統・文化の継承と発展のところなんですけど、佐田岬半島は豊かな自然で、海に囲まれているというイメージなんですけど、町民の人と同じようなイメージを持っていると思います。他に何かあると言われると、佐田岬灯台があって、最近では、はなはなに新しいしらすパークの施設ができて、亀ヶ池温泉があって、風車があって、というようなイメージが町のイメージだと思います。歴史的な部分というのが、観光にまで発展させなくていいとは思いますが、もっと町民の人に広く知ってほしい。塩成・三机間や、名取の宇和島藩が使っていた遺構、戦時中の三崎の砲台跡とか、三机の九軍神とかの戦争の遺構が町内にあります。これらは、学校では町見郷土館の学芸員の高嶋さんが、まち歩きのような形で、子ども達を連れて色々ところを案内していますが、これからの時代、ドローン撮影もできるし、色々デジタル化できるので、町内の歴史的な魅力を映像化・テキスト化した形で、学校で活用するなり、各公民館で活用するなりして、こういう形で住民の人に活用してもらっていいと思っています。

(高門町長)

結構、デジタルコンテンツ作っていますよね。

(道元平委員)

そうなんです。御籠島などの映像は高嶋さんの案内で見ることができます。

(高門町長)

それと、ワンダービューコンペティション。今年で3年目なりまして、毎年50～60の作品があるんですよ。

(道元平委員)

作品に、音声ガイドやテロップで、場面が映った時に、歴史的な説明などを中に盛り込んでいただければ、佐田岬半島の歴史や成り立ちを知ってもらえると思います。

(高門町長)

そのような映像はないんですか。

(高嶋館長)

今おっしゃられたように、ピッタリな映像はあんまりないですね。少量が色々なシーンに使われていますが、説明などはあまりないです。

(道元平委員)

瀬戸農業公園の売店などの広い場所で、塩成や三机の歴史的な部分の映像や説明が見ることができるようにしたり、灯台の駐車場に灯台まで歩くことが大変な人のために休憩所ができたりしているが、あまり利用しているところはない。このような場所に三崎の灯台の案内映像などを使って、案内できるようになったりできるようになれば、すごくいいなと思います。

(高門町長)

検討させていただきます。

(道元平委員)

加えて、町見郷土館主催だけではなく、色々な講演会などを開催してほしい。例えば、伊達藩が管轄していた頃の歴史、戦争を通じた平和学習、精錬所跡なども沢山あります。年に2～3回程度、佐田岬スクール、カレッジのようなものを設けて、魅力を掘り起こしていけたらいいなと思います。あまりお金のかからないものを作っていただきたい。

(高門町長)

映像を作るのは結構お金が必要になります。

(道元平委員)

インスタグラムなどのSNSで「#佐田岬」が付いた、沢山の映像や写真が投稿されています。町民が自由にいろいろな場所を投稿して、それらの投稿を使って作り上げていく、というのも面白いと思います。

(濱松副町長)

優秀な人でも、自分の地元を知らないということがあります。高嶋さんは相当調べていて、現在、歴史的遺産の時系列を調べています。一昨年、九軍神について、役場の職員の希望者を募って、研修会で職員に説明しました。非常に良い説明でしたが、職員でもそういうことを知らない人がいました。教育委員会だけの問題ではなくて、町全体の問題だと思いました。

(道元平委員)

特に、戦後育ちの人達は、地元の歴史の勉強を受けていません。受け継がれていないのがもったいないと思います。

(中井教育長)

情報の発信はできています。例えば、広報には毎回掲載していて、誰でも見ることができます。結局は、見ようとしなから、何も伝わっていません。そういう現実があるので、それをどう魅せるかという話です。先程おっしゃられた、文化資源はデジタル図書館でアーカイブ化して調べることができるように、資料として残すことはできます。それに加えて、伊方町にアクセスすると、観光ガイドが流れるようにする。例えば、阿弥陀池に行くと、阿弥陀池の案内音声流れるようにするといいいのではないか。

(高門町長)

最近では、観光に QR コードを導入しているところもあります。スマホで取り込むと、動画が見られます。

(中井教育長)

たちまち取り組んでいきたい。現在、準備中です。

(道元平委員)

最近、八幡浜市の市民文化活動センターを見に行きまして、その時に菊池清治邸がリフォームされたということで、ツアーがありました。参加者 30 人ぐらいで、見学させていただきました。「八幡濱みてみん會」の岡崎さんにガイドをしていただきました。そのようなガイドなので、パンフレットなどを印刷されて、説明資料も配布していましたが、参加者の皆さんはパンフレットを競って持って帰ろうとしますが、恐らく、ほとんど方は家に帰ると、捨てていると思います。正直、もったいないだけです。その代わりに、菊池邸にはなかったんですが、映像的な部分だと、よく見えます。それでもまだ、映像の文字を追うことはしない。音声だったら、聞くんですが。それぐらいの情報の取り入れ方になっていますので、デジタル的な部分を進めていってほしい。デジタル化が広まれば、観光をはじめ、色々な分野で使えると思いますので、ご検討のほどよろしくお願いします。

(阿部勇二委員)

去年、この会議で学校の統廃合について質問いたしまして、アンケートを実施することとなりました。1年かかりましたが、今回アンケートをとります。統廃合をやりますとなっても、親からの意見には、先程の給食の件と同じですが、非現実的な意見も出てくると思います。ほとんどの方から、統合に賛成、町に1つ大きな学校にしましょうという意見が出たとします。しかし、例えば、の話ですが、伊方小学校と九町小学校が1つになって、1学年の生徒数が30人を超えるので、2クラスになり、普通教室が全体で12クラスになります。そうすると、今ある施設では収まりきらない。このようなことを、町民の人に理解してもらわないといけない。伊方町はお金を持っているからできるだろう、という人もいますが、これも違います。実際、今回のアンケート調査でどのような意見が出てくるのか、想像もつきませんが、1つ1つの意見を考えていった場合、できないところは、できないとはっきり言う必要があります。一方で、これは無理してでもやらないといけないというところは、無理してでもやらないといけません。それらの判断を一緒になって考えていかないとはいけません。私は思います。

そして、町長さんが先程、お金をあげたら家を建てるとおっしゃっていましたが、そこはある程度、こらえていただきたい。投資した結果、そこに家が建って人が残ってくれるというのはありがたいことであると思っております。

また、最初の町長のあいさつで、三崎高校のことを直近の課題であると、言っております。私自身、三崎に住んでいる者として、今年、県外から来た1年生が、どれ程三崎地域を明るくしているかということ、身にしてみても感じます。この間、テレビで放送されましたが、他所から来た子があれだけ明るい顔して、生き生きした目で、三崎や伊方町を宣伝してくれることはありがたいことだと思います。町営の寮を建て、スクールバスまで購入していただいて、すごい決断をしていただいたと思います。その決断に見合った結果が出つつあると思います。今までは、住民票は伊方町に移させていませんでしたが、今年は、特別な事情がない限り、伊方町に住民票を移させています。これにより、16～18歳の子どもが、少なくとも50人、県外から伊方町に住民票を持ってきてくれているということです。これは、目に見えないけれどもありがたいことです。副町長が言われたように、地元の人が地元を知らないということですが、町内出身の生徒に、他所から来た生徒が伊方町の良さを伝えていきます。是非、この子たちを見守っていただきたい。これからも、今年度、来年度で新しい伊方ファンができて、新しい高校生が伊方町に住民票を移して来てくれると思います。その子達に対する備えを、是非一緒にしていっていただけたらと思います。

(高門町長)

三崎高校は私達の想像をはるかに超えて、いい方向に向かっています。町の名前をPRしてくれてありがたいと思っております。投資した分以上に、子ども達からは返してもらっていると思っております。これからも2年・3年と、2年目は目途がつきつつありますが、続けていきたい。そして、将来的には、八幡浜市・西予市・伊方町の1つのブロックで高校の検討会が始まろうとしている。その中で三

崎高校の存続を町として主張していかなければなりません。また、八幡浜・川之石に通っている、伊方の子ども達をなんとかしてくれ、という意見も出ています。目配りが必要だと思っています。これらのバランスを取りながらやっていきたいと思っています。今までは三崎高校の存続という方針で進めてきました。存続ということが達成できたので、次は三崎高校の魅力化ということですが、町としてその魅力化の後押しということで、町民の方、議員さんへの説明をしていきたい。

(中井教育長)

移住定住のモデルケースとして、例えば、子どもと大人がセットになって来てもらって、その受け皿としての三崎小・中学校、三崎高校、ということも考えられます。色々な可能性があり、高校生だけでなく、最終的には家族ごと持ってくるような戦略もあっていいかなと思います。

(濱松副町長)

魅力化の最終目的は、新しいふるさとづくりをするということです。隠岐の島をご存知だとは思いますが、あそこは、そのような部分で漁業者が多い。漁業の体験など、町を挙げて行っている。隠岐の島の隣の海士町もですが、そのようなやり方を集落全体が挙げて行っている。補助金を出すだけでは足りない。

(高嶋館長)

三崎高校ではブーメラン人材の育成を目標にしている、伊方町に帰ってくるようにするには、ITなどの最新のこともについても学ぶことも大切ですが、地元に着がわくようなこともしないといけないと思います。

(阿部勇二委員)

一番大事なことはそこだと思います。教育は結果が出るまで時間がかかります。ここ数年で結果が出て、ありがたいことです。あとは、結果を維持できるようにどうすればいいかというふうになってくると思います。58人で始まって、言い方悪いですけど、1年もたない子が何人もいると思っていました。それが、58人で始まって、現在まで1人も欠けていません。それどころか、みんな楽しそうに学校に行っています。中学校に行っていなかった子が、毎日楽しく学校に行ったり、人前で話すことが苦手な子が三崎高校に来たことで、ボキャブラリーが増えた、と成長を実感したりしています。それを見た親が、子どもがこれだけ変わるのだったら伊方町に来てみたいと思う親もいると思います。それから里親もあって、これからは、土日みんなで松山に行って、ショッピングを楽しむ。寮に入っている子は交通手段がない。そういう子のために、誰かが、親代わりになってそういうことをしてあげる。その子達は里親制度を利用することで、伊方町にも親ができます。生まれたところと、思春期と過ごしたところに親ができます。これにより、伊方町に残ってくれたり、将来帰ってきてくれたりします。これは宝になると思います。目には見えにくく、時間もかかりますが、人口減少を止める1つ

の糸口になると思います。

(高門町長)

嬉しい悲鳴ですけど、寮を建てても、来年、今年度と同じくらい生徒が集まると、収容できるのか。

(阿部勇二委員)

できないと思います。そのための、里親制度です。土日だけでも里親を受け入れる形から始めていって、徐々に来年からやるべきです。

(高門町長)

スクールバスは足りるのか。私はそれも心配です。2台になりますと、ドライバーの経費も倍になります。

(中井教育長)

2台あれば、それはそれで1つの売りになります。

(高門町長)

バス業務費が維持費用込みで1台あたり500万円かかります。2台ですと、1,000万円かかります。振興会に出せる金額は町として限界があります。八幡浜方面の生徒への目配りにも注力していきたい。

(阿部弘喜委員)

競争率が上がってくることは凄いことです。

(道元平委員)

今年度の三崎高校というのは、どちらかと言うと、私立高校のような雰囲気です。逆にそれが特色になっていくのではないのでしょうか。

(高門町長)

でも、競争率が増えると、地元の人が「うちの子、三崎高校に入れるんやろか」と心配になります。

(道元平委員)

三崎高校のレベルを上げるということに関しては、こういうことも大事だと思います。

(高門町長)

それらに関しては、すごく嬉しい悲鳴だと思います。それに伴う、住むところや、通学の足の整備などは今から考えていかないといけない。

(道元平委員)

3年間、高校生活を送ると考えて、空き家計画等を充てていくということも考えられます。

(中井教育長)

子ども単体で来ると、空き家などの経費がかかり、それに関わる人件費もかかるということになるので、親と一緒に来てくれるのがいいですね。

(高門町長)

三崎で下宿とかできないのか。

(阿部勇二委員)

家族で過ごせることが一番いいと思います。親の単身赴任ではないが、子どもに片親だけが付いてくるようなことが、これから増えていくと思います。

(中井教育長)

リモートで仕事をしている企業が増えているので、今がチャンスです。

(阿部勇二委員)

旧三崎の商店街の通りなどを、昔の文化住宅を生かすなどして、上手に活用していきたい。

(中井教育長)

手厚い教育予算を売りにしたら、何人か来る人もいないのでしょうか。

(高門町長)

もう限度ですよ。予算額が700万円から1800万円になりました。

(道元平委員)

町が変わっていかないといけないのではないか。どこの集落に行っても、ちょっと前までは賑やかだったのに、と思います。三机に行っても、どこの店も開いていない。この間、また店が閉まってしまった。

(高門町長)

民間が元気出してほしい。プレミアム商品券も町のほうからお願いしている。民間のほうから要望が出てこない。

(道元平委員)

まず、商工会の青年部がない。青年部に位置付けされる活動が伊方町の場合がない。それぐらいの年代の若者を集めて、1つの共同体を作るといってもいいのではないか。

(阿部勇二委員)

商工会や建設会社の跡取りがないと聞きます。

(道元平委員)

そうですね。商工会の青年部も3人しかいません。活動も今、全然ないです。

(高門町長)

血族の跡取りではなく、事業承継のようなものは考えてくれないのか。

(道元平委員)

民宿は3件しか、GO TO トラベルに登録していません。

(高門町長)

GO TO イートも2件だけしか登録していません。

(道元平委員)

飲食関係も下火になっています。私も過去に八幡浜で飲食店をしていたので、思うことがあるんですが、伊方町で店を出すことは難しいところがあります。人が来るだろうかということがありまして。役場ではお昼にお弁当を売っている業者がいますが、それで事足りてしまいます。伊方町自体に人が集まる場所が1つもないということが寂しいことです。

(高門町長)

行政区が55の地域に点在しているというのも珍しいことだと思います。最近、徳島県の美波町に行きましたが、人口が約6,500人ですが、8割ぐらいの人が1か所に住んでいます。だから、中心部は伊方よりも賑やかでした。

(道元平委員)

亀ヶ池の温泉施設に並んで、2～3件程、飲食店が軒連ねてもいいのではないかと思います。

(濱松副町長)

三崎も浜のほうにも2つ、3つ連ねればいいと思うんですがね。

(高門町長)

漁協が店を開きました。500円でお弁当を買うことができます。はなはな中心に周りが発展していったらうれしいと思います。

(道元平委員)

確かに、しらすパークは今、人がたくさん訪れて賑わっていますが、元々佐田

岬ツーリズム協会が入っていた建物に、人があまり入らなくなってきました。売店だったところはイスとテーブルを置いて、休憩所になっている。テナントの貸し出しのように、何か活用できないだろうか。

(高門町長)

あそこは、貸し出しをいたしまして、手を挙げたのは国道九四フェリーでした。待合所になっていますが、人がいないのが現状です。

(道元平委員)

若い人は発想力を持っているので、活用できる場所を提供することで変わってくるのではないのでしょうか。

(高門町長)

三崎高校生のように、伊方の活性化の方向に加わっていけばいいのですが。話は変わりますが、漁師さんがやっているクルージングはどうですか。

(道元平委員)

2クルーズで、定員 15 人でやっていますが、毎回 10 人程席は埋まっているようです。このようなところから始めていくことは悪くはないことだと思います。船でしか見られない伊方の景色も結構あるので、町内外関わらず満足されています。

(中井教育長)

はなはなを起点にして人が集まっている。今、流れが来ているので、その行程で瀬戸や伊方にも寄っていただきたい。

(高門町長)

瀬戸は頂上線をなんとかしたい。

(阿部勇二委員)

木を切ったことは、素晴らしいことだと思います。地権者の理解と近所の人々が風対策で文句さえ言わなかったら、メロディーラインができた頃は、どこもあのような感じでした。

(道元平委員)

瀬戸の農業公園周辺は、三崎が観光ゾーンだとしますと、歴史ゾーンのような、そういった部分で整備していったらいいなと思います。歴史・文化のあるエリアで歩いて回れるのは、三机と塩成ぐらいです。

(濱松副町長)

野鳥観察にもけっこう人が来ています。

(藤川美喜委員)

蝶々のアサギマダラも人気があります。町外の人の方が、よくポイントを知っています。

(高門町長)

アグリトピアの活用に関して、何かいい案はありませんか。

(道元平委員)

コーロクのメンバーがアグリトピアで頑張っていると思いますが、下に大久展望台ができた時に1階に喫茶店があったと思うんですが、そのようなものを復活できないかと考えています。上には大和ハウスのリゾートの人達が住んでいますし、道の駅から離れた所に位置しているので、1つ売店などがあればいいなど、いつも通っていて思います。せっかく、夜にLEDで照らしていますが、泊まりに来てくれた人に、あれだけ見に行つてなどと言うのは、なかなか難しい。見れば綺麗だと思いますので、もったいないと思います。

(高門町長)

近くに喫茶店がありましたが、体調不良のため、辞めてしまいました。

(道元平委員)

アグリトピアに宿泊する時に、近くに何もないので、売店のようなものがあれば、買い物などができると思いました。

(高門町長)

大久展望台に、せめてベンチを置きましょう。

(道元平委員)

下灘駅はベンチと屋根が付いているだけで、あれだけのデートスポットになっています。1日に400~500人も人が来ます。昔、佐田岬の名取の石垣や風車が並んでいる絵など、色んな絵を募集した年があったと思いますが、それでカレンダーを作成するという。これを毎年、継続していけたらいいと思います。

(中井教育長)

文化財を広めるということであれば、写真展や絵画のコンクールなどを開催してはどうでしょうか。そういうことをやっていったら文化の発展につながると思います。

(道元平委員)

これらはあまり費用が掛からないので継続していきやすい。

(高嶋館長)

絵画展は、こういうことをやりませんかと各市町村に打診している団体が働きかけて実施したものだと思います。単年しか実施されませんでした。モチーフになっている風景や、こういう風に見られているということを振り返るいい機会にはなったと思います。

(高門町長)

バイク乗りの人はどんな感じですか。

(道元平委員)

バイク乗りの人はお互いが SNS でつながっています。

(中井教育長)

三崎にバイクの宿がありますが、どんな感じですか。

(阿部勇二委員)

安いので、土日には何台かバイクが止まっています。倉庫の2階に、二段ベッドを置いているだけなので、最大6台くらいしか入らないです。当然、相部屋ですが、バイク乗りは話が弾むので問題ないと思います。バイクで四国八十八か所を回っている人が途中で立ち寄りたりします。

(濱松副町長)

みなさん、佐田岬灯台が四国八十八景の52番目に指定されました。

(道元平委員)

絶景ポイントが沢山あるので、これらを活用していきたい。

(阿部弘喜委員)

三崎もいいですが、湊浦も発展させていくべきです。湊浦に来て、ご飯を食べるところがない。三崎から来て、保内や八幡浜に行ってしまう。

(高門町長)

町に作れと言われても、難しいところがあります。民間からのアイデアが欲しいところです。新規雇用者が2名以上で準備費に300万円の補助が出るんですよ。町外から来て、新規開業する人は新規雇用に関わらず、100万円の補助が出ます。

(中井教育長)

それを知っていたら、おいしい話ですね。湊浦に開業したら、けっこうやっていけそうな気がします。

(道元平委員)

土日や祭日に、湊浦に行っても役場や学校が休みなので、開いている機関がない。

(中井教育長)

飲食店もあまりないですね。湊浦にも閉店となった店舗の跡地は沢山あるんですが。

(高門町長)

跡地はあるんですが、そこに定着して商売が成り立つかどうかの問題です。

(道元平委員)

松山の県美術館の前にある公園のように、役場の駐車場が、土日や祭日にキッチンカーやトラック市などを使えるようにできたらいいと思いました。

(濱松副町長)

言っていただいたら、許可は出しますよ。

(道元平委員)

今はキッチンカーの活用が増えてきているので、イルミネーション時のエリア分けのようにして、呼び込みしたらいいのではないのでしょうか。

(高門町長)

キッチンカー何台かあると言ったら、みんな寄ってくれるでしょうか。24日にははなはなで、トラック市をやっていました。お客さんの数が減っていると感じました。

(阿部勇二委員)

地元の人だけを相手にしているようではいけません。宣伝をしたら、何台かは呼び込めるかもしれません。

(阿部弘喜委員)

やはり、伊方の中心地である、湊浦が栄えないといけない。店屋も何もないのは寂しいと思います。

(濱松副町長)

観光客が来ても、お金を落とす場所がないです。

(高門町長)

こうこうことは、やはり、民間が主導となってやっていくべきです。行政が主導でやると、うまくいかない。民間が主導となって、行政がお手伝いするという

ことが理想だと思います。

(阿部勇二委員)

場所の提供ぐらいはそのように町が呼びかけていただきたい。

(高門町長)

あれもこれもダメを言っているけど仕方ないですね。知恵があればいつでも教えてください。

アンケートなど学校統合のスケジュールはどうになりましたか。

(阿部弘喜委員)

アンケートを集計し終わるのが2月ぐらいで、来年度から検討委員会を立ち上げていきます。色々なことを書いてくるとおもいますよ。

(高門町長)

町民グラウンドのいい活用方法はありますか。

(阿部スポーツ推進室長)

絶賛検討中です。

(高門町長)

検討中が10年くらい続いています、ぜひ検討してください。

(阿部勇二委員)

「こんなことしたいから、何か補助はないだろうか」と言ってきてくれたら色々な対応ができやすいが、それが無いのがネックです。生涯教育もそうですが、小学生や中学生の様なフットワークが軽い人は伊方町全体で活動できると考えることができますが、ある程度、年を取った人は、伊方町内でイベントがありますよと言っても、腰が重く、そこに集まるのが難しい。結局、コミュニティに限られてきますが、その小さなコミュニティの中で、お年寄りの方から、「こういうことをしたいので、手伝ってもらえないか」と頼まれると、行政が手伝えることは沢山あると思います。しかし、それがなかなか上がってこないのは、我々含めて、田舎者の閉塞感があるからだと思います。ボキャブラリーや起爆力を持ってやっついていかないといせません。企画はしました、こんな補助金付けましたと言っても、利用はされない、文句は言われる。やる気なくなりますよね。我々、教育委員としましても、「子どものためにこんなことしたい」「生涯学習でこんなことしたい」と言ってきたら、それが、できるかできないかを言うことができます。こちらから言って、無反応でしたら、こちらから働きかけるのは無駄なことなのかなと思ってしまう。

(濱松副町長)

めげずに、「みんなでやりましょうよ」と呼びかけていくしかありません。

(高門町長)

高齢化が進み、消滅寸前の集落がかなり出てきています。集落1つをグループホームの1つの部屋と捉えて、集落で福祉サービスをトータルに考えていきたい。そして、来年2～3か所モデル地区を作りたいと思っています。こういうサービスがあればいいというのを出して欲しいと思います。グループホームのサービスとしましては、配食サービスや入浴のお手伝い、リハビリなどがありますが、その中で町としてできることをやっていきたいと思っています。

(中井教育長)

限界集落の中にそういう拠点を1つ作って、食事の宅配、入浴の手伝い、墓の掃除など色々なことができるように、20～30人のお年寄りを対象に何人かでやっていくということですね。

(高門町長)

町の職員が全部やるのではなくて、集落にいる若い人が有償ボランティアのような感じでやっていきたいです。

(道元平委員)

私の集落では集会所で、月曜日に習字教室、木曜日に俳句教室を年間通して、毎週やっています。地域のつながりは強いと思います。

(高門町長)

そのような場ができてきたらいいと思います。趣味の場も必要ですし、お医者さんの健康相談のような福祉サービスもそこにプラスできたらなおいいと思います。

(道元平委員)

毎月奉仕作業もやっています。皆さん、よく参加してくれています。

(中井教育長)

リーダーの力ですね。リーダーがいたら、みんなを引っ張っていってくれます。そういう人がもっと増えてきてくれたらいいですね。

(高門町長)

やはり、集落によって全然性格が違いますからね。

(道元平委員)

高齢男性がよく、一日中、浜に集まっています。それはそれで、いいコミュニティになっていると思います。私の集落はあまり家に籠っている老人は少ないで

す。最近、野菜の苗を配布していただいているので、各家庭で野菜を植えています。

(高門町長)

その、人が集まる場所にベンチを置いていくべきです。湊浦にあるベンチを3つ作るのに1年かかりましたが。

(道元平委員)

私の集落の浜には相当な数の手作りのベンチがあります。やはり、動ける人が動いていかなければならないです。

(濱松副町長)

公民館活動もそこからですね。小難しいことを言うのではなくて、衣食住ぐらいは協働でやっていくということですね。

(橋本総合政策課長)

このあたりで、協議を閉じさせて頂きたいと思います。濱松副町長から閉会の挨拶を頂きます。よろしくお願いします。

(濱松副町長)

第1回の総合教育会議ということで、長時間のご審議ありがとうございました。非常に参考になることばかりでした。また、何らかの形でご縁ができたらいいなと思います。また、是非ご指導のほどよろしくお願いします。本日はありがとうございました。